

議 事 録

件 名	令和7年度 第3回 久留米市男女平等推進センター運営委員会
日 時	令和8年3月24日（火）15:30～16:37
場 所	えーるピア久留米 男女平等推進センター 210・211研修室
出席者	委員 永松委員、末崎委員、平田委員、堀田委員、新開委員、江藤委員、酒井委員、檜原委員、井上委員、笠委員
	事務局 神代、大場、菅山（男女平等推進センター）
	ワザパー 森山次長
欠席委員	池田委員、松本委員、伊崎委員
傍聴者	0名
配布資料	① 次第 ② 【議事（1）①】令和7年度 事業の実施状況 ③ 【議事（1）②】令和7年度 施設の利用状況（1月末現在） ④ 【議事（2）】令和8年度事業計画（案）について ⑤ 【その他（1）】久留米市男女平等推進センターにおける課題と今後の対応について（報告）
議 事 内 容	
<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）令和7年度事業実施状況について</p> <p style="padding-left: 20px;">①事業の実施状況</p> <p style="padding-left: 20px;">②施設の利用状況（1月末現在）</p> <p>（2）令和8年度事業計画（案）について</p> <p>3 その他</p> <p>（1）久留米市男女平等推進センターにおける課題と今後の対応について（報告）</p> <p>4 閉会</p>	
議 事 内 容	

【質疑応答・要望】

2 議事

(1) 令和7年度事業実施状況

①事業の実施状況について

（委員） デートDVについて、なぜ実施が5校だけなのか。今後実施を増やしていく取り組みがあるかお尋ねしたい。

（事務局） 年度当初などに校長会などで事業の周知をして募集を行ったが今年は5校だった。校長会等を通して教育部と連携し、実施校数を増やす方向で動いている。

(委員) デートDV講座は令和5年、6年、7年と城島中、江南中、荒木中が例年実施しており、今年は田主丸中で新たに実施した。これらの中学校でずっと実施しているということは、たぶん、成果としてやって良かったという思いがあるのだと思う。このようなことが分かっていたら他校にもPRしていただきたい。それと意見を一つ申し上げたい。国際女性デーで秋月先生に講演いただいたが、素晴らしい講演で、基礎から応用編まで含んだ内容で、たくさんの人に聞いてほしかったという声が上がっていた。今後もこのような講演をしていただきたい。

(事務局) デートDV講座については、何回も続けている学校がある。今回、校長や教頭とも話をさせていただいたが、ある学校では、中学校生活のうちに1回は聞かせようということで計画的に実施していただいている。実施前と実施後に学校でアンケートを取っているが、デートDVや暴力について理解できていない子どもたちが、この講座を受けた後は、いかなる場合でも暴力は許されないと答える生徒がすごく増える。このようなことは事業の効果であり、ジェンダー平等教育の一環でもある。暴力の根底にはやはり男らしさ、女らしさというところが備わっているということもしっかり講座の中で伝えていっているので、効果はあっていると思う。

それとPRについては、例年、新年度になって5月の校長会で案内するが、もうその段階ではどの学校も年間事業計画を立てている。そこで今年度は教育委員会と早めに打ち合わせをし、カリキュラムの組み方なども一緒に提案させていただいた。早めに検討いただきたかったので、1月の校長研修の場で事前説明させていただいた。その後も個別に校長に営業している。新規事業を実施するのはハードルが高いようだが、実際に事業を経験された校長や養護の先生から、違う学校の先生たちにこの事業の良さを伝えていただくようお願いしている。

秋月先生の件についてだが、現在予約不要で久留米市公式ユーチューブ動画を配信している。委員のみなさんもぜひご覧いただきたい。

(委員) 中学校も小学校も、3月にはもう年間計画が出来上がっている。恒常化できないという話も聞くが、命にかかわる話なので、積極的にPRをお願いしたい。

(委員) 5ページの田主丸校区で実施したまちづくり講座だが、地域からの男性参加者が57.9%もいる。地域で何かムーブメントでも起こっているのか、男性が参加する秘訣などあれば教えていただきたい。

(事務局) 田主丸校区のまちづくり講座は2回シリーズでこれだけ来ていただいた。校区の現状として、田主丸中心部の校区であり古くから住んでいる方も、新しく分譲住宅を建てて住み始める方も増えている。そのような中、これまでの住民と、新しい住民との交流が深まっていかないという課題と、男性中心になっている自治会運営や、校区の役員体制が変わっていかない課題、性別役割分担意識が地域で根強いということについて勉強したいということだった。そこで、男性の役員を含め、女性の役員候補者の方たちにも、役員から参加を呼び掛けた。

(委員長) 今のを補足すると、今の田主丸校区の参加者19人のうちの11人が男性であり、これは、役員さん方に声かけられてからの人数なので、現状として男性の役員がとても多いという事である。

(委員) デートDVが実施された田主丸中については、人事異動で赴任した先生が、以前いた学校でデートDVの講義を受けたとき、良かったということで、田主丸中でも実施したいということになったと聞いた。先生方は人事異動があるので、このような形で広まっていくことは実際あるし、すきま時間を使って講座を入れ込んでもらっているところもある。そこまでしてでも、この事業を通じて生徒にしっかり伝えていきたいということだった。

②施設の利用状況（1月末現在）について

質疑なし

(2) 令和8年度事業計画（案）について

質疑なし

3 その他

(1) 久留米市男女平等推進センターにおける課題と今後の対応について（報告）

(委員) 「利用団体等との意見交換をして、一部反対の意見を踏まえた」となっているが、この5, 6年のうちに利用した団体は42団体のうち12団体ほど、4分の1の団体である。そして、その団体の中でも、当初反対しなかったが、利用者連絡協議会の要望事項をまとめる際に、やはり夜間のかぎ貸し出しをやめていくのはおかしいという意見があった。だから、この資料で一部反対という表現は、正確ではないところがある。男女平等推進センターは条例をもとに設置されている。センターは、ジェンダーに起因する人権侵害に対応する役割を担っている。人権に関することは、行政の責務であり、人権行政に効率性は求められないものだと思う。

それと、「日中の職員体制を充実」と書いているが、大きく考えたら民間への移行に繋がっていく恐れがある。夜間対応がなくなったら、最初のうちは日中の職員体制が充実して良くなったと思うかもしれないが、長続きはしないと思う。仕事がなくなれば必ず人員整理がある。だから、今の体制で職員体制の充実をしても人員整理があると思うので、そのあたりも考えながら、現体制でやってほしい。公務員の業務は施設の性格によって変則的な働き方がある。このようは働き方をしている職場は、ローテーションを組んで、労働条件がしっかり守られている。そこで、検討の結果、現体制で可能な取組を継続、充実させていくということに関しては、大変ありがたいと思うので、これからもこの体制でほしい。

(委員長) 今のご意見は要望ということでよろしいか。

(委員) はい。

(委員長) 皆様からの質問、意見は出尽くしたようだが、今年度、今日が最後の会議になる。そこで、次年度の運営委員会に向けて、委員全員から意見をいただきたい。

(委員) 今回、令和8年度事業計画(案)の資料が出た。この資料は事業の全体像を非常につかみやすい。この資料を頭に入れながら令和7年度事業を振り返ると、また見えてくるものがあると感じた。それと、この会議における自分の役割というものをずっと考えていた。勤務先は商工会議所のため、基本的には久留米市内の事業主、経営者を対象としているが、いかにここで知りえた情報をPRしていくか、自身は広報マンとなっていくべきだと感じた。最後に、事業体系を見ると、非常にたくさんの事業をしている。その事業のいろんな部分で反省事項や良い部分などの深掘りなどやってほしいが、センターの現場にも限りがあると思うので、商工会議所やその他の関係団体などとの連携を今後も模索してほしい。また、一部主催講座のオンデマンド配信という話もあったが、非常にいいことだと思う。これまでの広報手法だけでは追い付かない状況になっているので、このような部分は今後どんどん広げていく部分だと思う。

(委員) 連合北筑後地区協議会で事務局長をしている。昨年11月に交代したため今回は2回目の会議参加になる。労働組合という立場で男女平等の課題を考えていく場合、まず大きい課題は賃金格差、それから働く環境をどう整備していくかが大きな視点になる。その立場からすると、この場での課題がDVなど、労働組合がやるべき課題からすると少し離れている気がする。労働組合の視点でも、このような課題について議論が出来たり、参加できるようになれば良いと思っている。

(委員) 久留米市校区まちづくり連絡協議会の代表をしている。協議会には46校区のコミセン、振興会の理事、会長がいる。この7年度の事業実施、8年度の事業計画の報告を受けたが、関係者のみなさんにお礼と感謝を申し上げたい。私は46校区の会長の前の最前線で働く者として、これらの内容を反映して、1つでも多くジェンダーギャップが少なくなるような努力をしていきたい。

(委員) 今年度は3回目にして初めて参加している。事業計画を見ると、ものすごく広範囲な内容を扱っており、センターの職員は大丈夫かと思う。ぜひ無理をしないでほしい。また、今はAIが普及しているので、データの分析などはAIがすぐしてくれる。そういう業

務の負担軽減なども取り組んではいいかがか。自分は来月から異動のため、後任の委員に変わるが、本校は工業系の学校で、理工系の進路選択のためにジェンダーバイアスの提言を行っているので、これからもセンターを通じていろんな企画に参加し、ジェンダーギャップの低減に努めたい。

- (委員) 今年度から初めて参加した。諸先輩の委員になかなかついていけず必死だったというのが正直なところだ。自分も久留米市に住んで、市民活動をしている。子育て真っ最中の世代で、委員の意見の中にある若い世代、子育て世代という当事者として久留米市に貢献できればと思い、1年間やってきた。自分としては、くるめフォーラムやブックタイムなどに参加しても、まだまだ周知が足りないと思うところや、学校や行政が絡むとなかなかうまくいかないという体感が強かった1年でもある。何か働きかけていかないと物事が進まないと思うので、広報やAI活用など、できる範囲でできる事を一人ひとりがやると少しは変わるのかなと思った。
- (委員) 市民と行政が一体となってジェンダー平等を推進していく、その拠点施設の役割を果たしているセンターの運営委員会になると良いと思う。
- (委員) 精神保健福祉士という立場で参加している。以前救急病院に勤めていた時、DV被害者が来られ、精神的なケアなど行っていたが、結局は戻って自殺をされたという苦い思い出がある。熊本地震の際は、災害拠点病院に勤めていたが、災害避難所での女性が受ける差別などを非常に見てきた。そういったところが今後気になる。東日本大震災のときも被災地支援に行ったが、避難所での安全をどう確保するか。久留米市でも安全な避難所が開けるのかどうか、そのような視点でもセンターの活動に期待しているので、よろしくお願ひしたい。
- (委員) 一番良かったのは、手元にあるジェンダーかるたである。当初はこのような形になると思わなかったが、思いのほか学生が乗ってくれた。何かが形になって学生が動くたびにいろいろな自治体の方からお声がけいただくという、口コミで広がっていく形が実感できた。行政ではなく大学が1回プラットフォームに入ることで、つなぐことが出来るという事が非常に勉強になった。1月に実施したかるた会も、後から福岡県、筑後市、八女市と声かけいただき、RKBが取材に来た。取材の様子を夕方の番組で放送したら今度はそれを見た太宰府市から問い合わせいただいた。このかるたについては著作権を久留米市に譲渡しており、問い合わせは久留米市にあるのが正しいのだが、今度は鳥栖市からも大学に問い合わせがあった。このように大学や久留米高専などがセンター事業の間に入ってつなげることで、センターの取り組みを社会につなげていくようなことが来年もできたらいいなと思っている。ちなみに、6月3日にかるた会では、今問合せいただいている自治体の方がプロセスを見たいという事なので、完全公開で見に来てくださいと回答している。センターにもお世話になるが、来年もよろしくお願ひしたい。
- (委員) フォーラムに毎年参加させていただいている。センターの受付に、手話ができる人がいて、聞こえない人もとても安心して利用でき、聴覚障害者にも非常に配慮していただいていることに感謝している。
- (委員長) 委員の皆様におかれましては、突然の指名だったが、貴重な意見をいただきありがとうございます。

【終了】